

周波数逼迫対策のための技術試験事務 平成20年度新規案件事前評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
ウインドプロファイラレーダーの多重化技術	H20～22	<ul style="list-style-type: none"> ・気象観測システムの高度化についての緊急性及び社会的ニーズが高く、本技術試験事務としての必要性も高い。 ・電波の有効利用推進の観点からも早急に開始すべきである。 ・実施にあたっては、国土交通省気象庁との連携を図るとともに、諸外国における状況も十分把握し、計画に盛り込むべき。 	4.6
衛星通信を利用した個人用搜索救助システムの調査検討	H20～21	<ul style="list-style-type: none"> ・試験事務の必要性は高く、また実施時期についても妥当である。 ・技術試験事務の成果が国際的に貢献できるよう配慮しつつ、進めるべき。 ・アンテナ技術の検討にあたっては携帯端末の小型化や地理的条件等を考慮の上、実施計画を策定すること。 	3.9
ヘリコプターからのHDTV伝送(高画質伝送)のための衛星通信技術	H20～21	<ul style="list-style-type: none"> ・技術試験事務としての必要性はあり、実用性も高い。 ・災害対応にHDTV伝送を応用することについての意義は高い。 ・SDTV伝送を想定した技術試験との差異を明確にしつつ、進めるべきである。 	3.9
BSデジタル放送方式の大容量伝送技術	H20～21	<ul style="list-style-type: none"> ・BSデジタル放送の大容量化は重要なテーマであり、社会的ニーズも高い。 ・本技術試験事務は周波数有効利用に資するものであり、早期に実用化が望まれる。 ・選択する変復調技術については達成目標を数量的に明確にし、有用性を示すこと。 	4.0
移動体向けマルチメディア放送システムの共用条件に係る調査	H20	<ul style="list-style-type: none"> ・地上アナログ放送終了後の空き周波数をいかに有効に利用するかは重要な課題であり、積極的に推進すべき。 ・本技術試験事務の必要性は高く、2011年の地上波TV放送のデジタル化完了を踏まえると実施時期も妥当である。 ・早急に結果を出すべき課題と慎重に検討すべき課題に分けて、技術試験事務を進めるべき。 	4.1